

NEWS LETTER

Contents

- ・ 会長挨拶
- ・ 令和5年度日南市高校生海外短期派遣事業について
- ・ 「めざせ小村寿太郎国際塾」塾生 清掃・参拝の報告
- ・ 日南市役所より青山霊園墓参と終焉の地葉山訪問
- ・ 広がるベルの音はどこまで響くか届くのか
- ・ 小村寿太郎侯と小倉処平

2024
春季号

VOL.14

ごあいさつ

日南市高校生海外短期派遣事業の継続について

一般社団法人
小村寿太郎侯東京奉賛会
会長 下 苙 直 樹

春たけなわの候、皆さまにおかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、昨年の私達の会は、お陰様で実に輝かしい実績を残すことができました。

先ず、任意団体から一般社団法人へと発展したこと。次に、ホームページを開設したこと。さらに、日南市高校生海外短期派遣事業を実施したことであります。

法人化が叶ったことにより、社会的な地位が確立され、寄附金の受け皿が整ったところで、早速その第1号として日南市榎原ご出身の篤志家から多額のご厚志を賜りました。これを満額日南市高校生海外短期派遣事業に活用させて頂き、昨夏、日南市教育委員会の後援の下、市内3高等学校から各1名をポーツマスに近いボストンへ2週間派遣することができました。三人の若者にとって、将来を決定づける大きな契機としてお役に立てれば望外の喜びで

あります。

思うに、ふるさととは心の拠りどころであります。多感な青春時代をどこで過ごすかということは、先々計り知れない程大きな影響力を持ちます。聞くところによれば、日南市から宮崎市の高校へ通学する生徒が結構いるとか。故郷を思う人材の勿体ない流出であります。日南で学べば前記海外研修のチャンスもあると、一人でも思い止まってくれないものだろうかと期待するのは私だけではありません。

一方、資金はこのままでは直ぐに枯渇します。本来、日南市レベルで積極的に進めて頂きたい事業ではないかと考えます。継続してこそ将来の人材に「ふるさとへの思い」を繋ぐことができます。途絶えては意味がありません。例えば、ふるさと納税を用途限定で活用できないものでしょうか。ご検討の程、切にお願い申し上げます。

令和5年度日南市高校生海外短期派遣事業について

事務局長 金丸博司

一般社団法人 小村寿太郎侯東京奉賛会は、侯の遺徳を顕彰するとともに偉業を後世に伝承し、人材育成並びに会員相互の交流及び資質の向上に寄与することを目的としております。

当会の事業の柱の一つとして、小村寿太郎の「誠の精神」や「卓越した語学力」を日南市の将来を担っていく高校生に受け継いでいって欲しいとの考えのもと、海外でのホームステイを体験し、小村寿太郎の後を継いでくれる意欲と能力のある若者を育てるため、市内3高校の2年生を対象に各1名を学内選考して頂き、令和5年8月7日（月）から21日（月）までの15日間、米国ボストンを中心に語学研修に派遣しました。

に楽しんで下さい」の励ましの言葉を送り、記念撮影をして、直ぐ成田空港へのリムジンバスでの移動となり、下笠会長と平田さんに見送って貰いました。

バスの中では日南の様子など話題にしながら、水谷さんが「皆さんの母親にも近い年齢の為、お世話をするから何にも心配することはない。楽しんでいきましょう」と話され、安心しました。

成田空港では当会役員の石崎さん、松下さんの出迎えがあり、挨拶と記念撮影を済ませ、搭乗手続き、Wi-Fiルーター等の貸し出し、両替を済ませ、2週間何事もなく楽しく過ごせることを祈って無事に3名を送り出しました。



▶成田空港にて

その3名は、宮崎県立日南高等学校2年生の小玉香穂さん、同県立振徳高等学校2年生の甲斐春菜さん、私立日南学園高等学校2年生の丸岩澁和さんです。

8月7日、当日は宮崎空港集合で、日南市教育委員会の森さんが12:15発のJLで3名を東京へと送り出されました。

羽田空港では、当会会長の下笠さん、JTB担当の平田さん、ツアーコンダクターの水谷さんと金丸の4名で、初の対面を楽しみに出迎えました。

到着が10分ほど遅れ、また出口から出てくるのも30分ほどもかかり乗っているのかなと少し心配しながらの対面となりましたが、自己紹介の後、「これからの時間を大い



▶羽田空港にて

ホスト先情報としては、小玉さんのホームステイ先はご主人が1952年生まれの弁護士、奥さんは助産師、息子さんがいるが同居していない。周りはボストン郊外のメルローズにある住宅街です。学校まではホームステイ宅からバスでOak Grove駅下車、地下鉄に乗り、Downtown Crossingで下車、駅から歩いて学校へ。

甲斐さんはご主人が1958年生まれの会計士、奥さんは教師、娘さんが同居。ミルトンというボストン郊外の美しい住宅街。学校まではホストファミリーが地下鉄駅までの送迎をしてくれSouth Stationで下車、駅から歩いて学校へ。

丸岩さんは1958年生まれのボストン公立学校の美術教師宅。ボストン郊外のウエスト・ロックスベリー。

閑静な住宅街です。学校まではホームステイ宅からバスで Forest Hills 駅下車、地下鉄に乗り、Downtown Crossing で下車、駅から歩いて学校へ。

9日はマサチューセッツ工科大学見学



▶マサチューセッツ工科大学にて

12日はいよいよポーツマスへ



▶小村侯が使用していた椅子前にて



▶ポーツマス記念館にて



▶ポーツマス市内にある日南という料理店前にて



▶修了書

20日はどんな顔をして帰ってくるか楽しみで、羽田空港近くの待ち合わせ場所「ホテルマイステイズ羽田」にて20時頃の到着を下笠会長と金丸が出迎えました。

この日は宮崎に帰る便がなくて、21日の羽田発 JL 9 : 55での宮崎への帰路のためホテル泊となりました。皆と再会できた時、ひとまわり大きくなってきたなあ。ほんとに楽しかったんだなあ、とこちらもうれしくなり安堵しました。



▶羽田にて出迎え

最後に3人にとっていかに有意義な15日間だったのか報告書を掲載しました。次ページへ...

日南市高校生海外短期派遣事業報告書

日南学園高等学校 2年 丸岩 滉和

“Where do we come from? What are we?
Where are we going?”

ポール・ゴーギャン作のこの絵画をホストマザーと一緒に観たことを今でも鮮明に覚えています。ボストンでの約2週間の経験はこれからの自分の人生に新たな道を切り開いてくれたものになったと思います。

まず、私がこの派遣事業で成し遂げたかった目標は「アメリカでの生活を体験すること。」でした。様々な人種の人々がお互いのことを思いやり合いながら生活している国は、日本という一つの民族が主に生活している国とは何もかもが違う場所で、さらにホームステイを体験したことでこの目標を十分に達成することができました。

平日、朝7時ごろに起きて、アメリカな朝食を摂って、バスと地下鉄に乗って、語学学校に行っていた生活を通して、私は異文化の地で生活できる術を得られたと思います。語学学校に行った初日の日、私たちは自分たち一人で学校に行かなければなりません。到着して、すぐに聞かされた学校の最寄り駅とバスの名前を頼りに初めてのアメリカの地を歩きながら、どんな未来が自分を待っているのだろうかと考えながら、なんとか何のトラブルもなく無事に学校に到着することができました。それから、毎日、ボストンの中心部に行ったり来たりしていたら、どっちの道に行ったらどこに着くのか、あの建物があるからこちらへ

んかななど、すぐに、土地勘を得ることができました。

今でも、ボストンの風景がふと頭に出てくるときがあり、あの美しい、現代の建物と古い建物が林立している街をまたいつか訪れてみたいと思うときがあります。そして、私はホームステイ先でのお別れのときにホストマザーに渡した、お礼の手紙の内容を思い出します。「いつか、アメリカに大学院生として戻ってくる。」と私は著しました。

小村寿太郎侯も日本の大学教育を終えた後に、ハーバード大学のロースクールへ留学しました。私も小村寿太郎侯とは将来の目標が違いますが、アメリカの大学の大学院で学んでみたいという気持ちが生まれました。私は外交という道に進みたいという気持ちは今はありませんが、小村寿太郎侯のように日本だけでなく、世界によりよい影響を与えられる人になりたいです。

ポーツマスを訪れたときに改めて気づかされた小村寿太郎侯が成し遂げた事の偉大さはより多くの人々に知ってもらいたいし、ポーツマスの歴史のある赤レンガの建物などから、ポーツマスはどこことなく飢餓の街と雰囲気が似ていると感じました。これもポーツマスが会議する場所となった運命的な理由だったかもしれないと信じて……………

この度は、このような素晴らしいアメリカ短期派遣事業を本当にありがとうございました。この経験が見えるところで結果に出るように私もさらに勉学に精進していきたいと思います。

日南振徳高等学校 2年 甲斐 晴菜

日南市高校生海外短期派遣事業でアメリカ、ボストンに行ったことについて報告したいと思います。

私は初めての海外でワクワクとドキドキでいっぱいでした。

約13時間の飛行でボストンに着くと、日本とは違う味わったことのない、雰囲気不安な気持ちがより一層大きくなりました。ホームステイ先に着くと、初めは緊張してとまどっていると、笑顔で分かりやすく私が理解できるように話しかけてくれました。何を言っているのか分からなくてもしっかり聞いたり、質問をしていくと、少しずつ英語が聞き取れるようになり、それを感じることができたのでとても嬉しかったです。TALKの語学学校ではクラスの人とのコミュニケーションを取り入れる授業が多く、ゲームをしてみんなと笑ったりしたのがとても楽しかったです。色々な国の人と会話ができただけでなく、いい経験になりました。午前授業後のアクティビティでもボストンの町の人気な場所や有名な場所に沢山行くことができたのでとても良い思い出になりました。

他にはチップを払うということに驚きました。日本にはないチップを払うという文化に初めはいくら払えばいいのか、などとまどいましたが、2週間すこして当たり前になりました。小村寿太郎のこともニューハンプシャーのポーツマスに行き、

沢山の資料を見ました。小村寿太郎が条約を締結したということは知っていました。実際にパレードが行われた道や講和会議の際に小村寿太郎が座ったというイスも置かれており、とても迫力がありました。

他にはポーツマスの町にNITINANというレストランがあったことにも驚きました。小村寿太郎が行ったことへのすこさに改めて思いました。アメリカまで今の交通では、飛行機があり行くことができますが、船で安全にたどりつき、無事に帰国することができたのもすこいことだと思いました。初日は自分の英語が伝わるのか不安ですごく心細かったけど、自分を信じて自分から話しかけたりしました。少しずつ慣れて沢山のコミュニケーションをとれるようになると毎日がとても楽しかったです。

2週間はすごくあっという間に感じました。全てが初めての経験でとても新鮮でした。とても貴重な体験ができてすこく良かったです。日本に帰国した時には出発する前の自分より自信がつき、成長していることに気付きました。また機会があれば、他の国にも行ってみたいと思います。このような機会をつくっていただけて感謝しています。ありがとうございました。

私は、今回この留学事業に参加し、アメリカでの様々な事を自分で経験し、多くのことを学びました。

私は初めて海外に行きました。さらに、飛行機に乗ること自体も初めてでした。最初は、飛行機が落ちたらどうしようという不安がありましたが、安全な13時間の空の旅でした。機内食もとてもおいしく、映画やビデオのプログラムも充実しており、私はそんなに苦ではありませんでした。楽しい初めての空の旅を提供してくださった JAL の方々にはとても感謝しています。

ジェネラル・エドワード・ローレンス・ローガン国際空港について早速ハプニングが起きました。私たちの乗る飛行機が入る場所に前の飛行機がとまっていた、機内で約1時間待機しました。さらにその日は搭乗橋が故障していたため、飛行機から階段でおりるという経験をすることができました。入国審査では、答えられなかったらどうしようという不安もありましたが、スムーズに入国することができて安心しました。ホストファミリーの家に到着したのが夜遅かったこともあり、家周辺の景色を見ることができず少し残念でした。

私のホストファミリーはマザーとファザーの2人で私にとってもよくくださって本当に感謝しかありません。学校に行く初日、1人でバスに乗って、電車に乗って通学するという日南線にしか乗ったことのない私にとってとてもハードな日になりました。幸い、初日はホストマザーが最寄り駅まで送迎してくれました。降りる駅は把握していましたが不安もあったので、駅のホームにいた人に話しかけました。偶然にもその人も同じ駅で降りる人だったので、一緒にお話をしながら乗っていました。とてもやさしい人で、いい思い出になりました。駅から出るとそこはイメージしていたアメリカで、とても不思議な感じでした。私たちが通った学校 TALK ENGLISH SCHOOL は様々な国から、様々な年齢の人が英語を勉強しに来ている学校でした。私のクラスには計7カ国の人が入り、最初からフレンドリーに

仲良くしてくれました。授業内容も日本とは異なりグループワークが中心でした。そのグループワークでは、様々な価値観に触れることができ、逆に日本のことについて考える機会となりました。授業後のアクティビティでは、レッドソックスのホームスタジアムである。フェンウェイパークや世界トップレベルの大学であるマサチューセッツ工科大学やハーバード大学を訪れ、とても貴重な経験ができました。週末には1日だけポーツマス観光に行きました。ボストンとは異なる街並みで、素敵な場所でした。ジョンポールジョーンズという海軍の家にいき、そこでポーツマス条約に署名したペンや小村寿太郎が実際に座った椅子、ポーツマス条約締結までの流れを見ることができました。日南市民として、そこに行くことができたことを誇りに思います。私たちは1日を通してより深く歴史を学ぶことができ、それをもっと多くの人に知ってもらいたいと感じました。

私たちは1日ファミリーデーが設けられ、ホストファミリーとお出掛けしました。

ホストファザーがニューハンプシャー州の別宅に行っていたため、そこをマザーと訪れました。自然が美しい街並みで、心が安らぎました。マザーとはアウトレットへ行ったり、外食したりなどアメリカを楽しませてくれました。ホテルに滞在するのではなくホームステイをしたことで得られた学びはとても多く、一生忘れられない思い出となりました。また、自力で登校できるようになり、アメリカで電車に乗れるようになったのは大きな成長です。今回、この留学事業に参加して成長したことはまず英語を話すことに抵抗がなくなったことです。そして、様々な人と様々な話をする事ができ、知らない価値観や文化をすることができました。この経験は人生において大きな出来事となりました。一緒に行った2人と添乗員の水谷さん、アメリカで出会った人、そしてこの事業を企画していただいた小村寿太郎侯奉賛会の皆さん、森さんご支援本当にありがとうございました。この経験を活かしてこれからも頑張ります。

日次	月日(曜)	地名	現地時間	交通機関	予定	食事
1	8月7日(月)	宮崎発	12:15	JL692	羽田到着後、成田空港へ移動	朝:× 昼:× 夕:機内
		羽田着	13:55			
		成田発	18:25	NH106	空路、ロサンゼルスへ	
		ボストン着	22:55			
			18:30	専用車	ホームステイ先へ	
<ボストン泊>						
2~4	8月8日(火)~8月10日(木)	ボストン	終日	9:00~13:00	English Lesson	朝:○ 昼:× 夕:○
<ボストン泊>						
5	8月11日(金)	ボストン	終日		ポーツマス観光 (詳細は後日調整)	朝:○ 昼:× 夕:○
<ボストン泊>						
6	8月12日(土)	ボストン	終日		ホストファミリーと過ごす休日 (Family Day)	朝:○ 昼:× 夕:○
<ボストン泊>						

7	8月13日(日)	ボストン	終日		休日	朝:○ 昼:× 夕:○
<ボストン泊>						
8~11	8月14日(月)~8月17日(木)	ボストン	終日	9:00~13:00	English Lesson	朝:○ 昼:× 夕:○
<ボストン泊>						
12	8月18日(金)	ボストン	終日		Full Day Free	朝:○ 昼:× 夕:○
<ボストン泊>						
13	8月19日(土)	ボストン	発	午前中	専用車にて空港へ	朝:○ 昼:× 夕:○
			13:30	JL007	空路、成田へ	
14	8月20日(日)	成田	着	16:15	到着後羽田へ移動	機内
<羽田周辺泊>						
15	8月21日(月)	羽田発	9:55	JL689	到着後解散	朝:○ 昼:× 夕:×
		宮崎着	11:35			

「めざせ小村寿太郎国際塾」塾生 清掃・参拝の報告

理事 荒武 尚

監事 石崎 國雄

監事 吉田 千草

本年も郷里日南市から、めざせ小村寿太郎国際塾の生徒さん13名が、青山墓地にある小村侯の墓の参拝に訪れました。教育委員会の引率者2名の方とともに総勢15名、県外研修の一環としての訪問でした。

タイトな研修日程もものかは、生徒さん達の元気でキラキラとした表情には、今後の日本を先端で担って行くであろう意気込みさえも感じさせられます。

小村会役員・メンバーとともに清掃を終え、下笠会長の上京歓迎の挨拶を受けたのち、総勢23名の参加者全員が、小村侯の墓前に参拝を終えました。

参拝後は、生徒さん側から小村会役員等に対し、歓迎の挨拶に対する答礼が述べられました。更には質問等の交換もありました。最後には東京奉賛会メンバーからも、塾生の皆さん達に今後の塾生活動に対する激励の言葉を贈りま

した。

全員で記念の集合写真を撮影し、僅かな上京の記念品を贈り、次の目的地へと急ぐ塾生を拍手で見送りました。

2020年に学習指導要領が見直され、従来の英語教育が大きく変わりました。これまで小学5年生からだった英語授業が、小学3年生からスタートしています。これまで中学生からだった「教科」としての英語が、2020年には、小学5年生から始まっています。現在の小村塾生も、今後は中学1年生～3年生を編入した体制に変わっていく事が求められているようにも感じられます。

外国語の習得で最も後進国であると揶揄されている現状を、若い人々には打破して貰いたいものです。我々はそのバックアップを致します。

令和5年12月2日(土)



日南市教育委員会 都甲政文教育長より当会の下笠直樹会長に以下のようなお礼状を頂戴しております。

寒冷の候 貴殿には、ますますのご繁栄のこととお喜び申し上げます。さて、過日は、青山霊園において小村寿太郎侯の墓参に際しまして、格別のご配慮をいただき、誠にありがとうございました。

お忙しい中、参加者を温かく迎えていただき、普段聞くことのできない貴重な小村寿太郎侯のお話をいただき、さらには奉賛会の方々の真心の御配慮に心から感謝申し上げます。

今回参加した宮崎県日南市内小学6年生13名にとりましても、日本の発展に尽くし抜いた郷土の偉人、小村寿太

郎侯の功績について学ぶ機会となりましたと同時に、改めて尊敬と感謝の念を深めることができました。今後も、国際的な舞台で貢献してくれることを期待しております。

最後になりましたが、貴殿のますますのご発展をお祈り申し上げて、略儀ながら御礼の言葉とさせていただきます。

会 員 募 集

一般社団法人 小村寿太郎侯東京奉賛会は、会員募集をしております。
ご興味のある方は、最終ページ下部の連絡先までご連絡ください。

日南市役所より青山霊園墓参と終焉の地葉山訪問

事務局長 金丸博司

1月29日に日南市役所より青山墓地内にある小村侯の墓前に、当会の窓口になっている総合政策部総務課課長補佐兼総務係長渡辺伸也様と総務係主査外山達郎様のお二人が墓参に見えました。初めてのお参りとのことでしたので当会でご案内し、この地にお墓ができた経緯や墓石の説明等をしてお互い再確認しあいました。「やっと希望がなかった。日南市民にも小村侯のことを知ってもらいたいし、見直してもらいたいので広報もしっかりやっていきたいものです。」と述べられていました。



翌30日は葉山一色の小村侯終焉の地にも行ってきました。この家は第二次桂内閣の外相就任後借りた借家で、週末に時々訪れては休息をとっていた所でした。1911(明治44)年9月から亡くなるまでの3か月弱を過ごした所で、八畳三間、四畳半三間の粗末な一軒家で敷地の奥にあったため、終焉の地の碑は民家門脇の外から見て右手のこもり茂った松の木の下にあり、故郷宮崎に向かって建っています。碑の裏面には「侯爵小村寿太郎八日南市飢肥ノ産ナリ 一九〇五年 米國ポーツマス市ニ於テ日本國全權大使トシテ日露講和条約ヲ締結ス コノ縁ヲ以テ両市八一九八五年姉妹都市ノ盟約ヲ結ヒ永遠ノ友好ヲ約ス コノ侯終焉ノ地ニ小碑ヲ建立シ記念トス 一九八七年十一月吉辰 小村寿太郎侯奉賛会」と記してありました。



コラム

小村寿太郎侯と小倉処平

理事 松下定信

小村侯と小倉処平について書いてみたいと思います。

小村侯は小倉処平無くして生まれることはなかったと言っても決して過言では無いと思います。

1853(嘉永6)年、ペリー提督が開国を求め浦賀へ来航後、1855年、日南市飢肥本町下級武士の別当屋敷にて小村侯は9月26日に誕生しました。満4歳で私塾に入り、6歳で飢肥藩校振徳堂入学。小村侯は14歳で振徳堂を卒業したが、この時には古典を学び続けたいとの意思が強く、古典の道に進学を考えていた。一方、小倉処平は早くから小村侯の才能を見抜いており、英語を勉強させるために小村侯を連れて長崎へと旅立ちます。もし、この決断が無かったら、明治の外交官小村寿太郎侯は生まれなかったでしょう。その後小村侯は大学南校(現東京大学)に入学します。文部省第1回留学生として、米国ハーバード大学に入学、22歳でハーバード大学法学部を卒業、専修科に進みます。小倉処平は飢肥の西郷とも呼ばれ、明治4年には岩倉使節団より一足早く海外留学を命じられ、イギリス、フランス

へ明治6年(1873年)まで留学している。

この小倉処平の決断こそが明治の外交官小村侯を誕生させたのです。

その後小村侯はポーツマス講和条約締結交渉に臨むことになります。

アメリカ大統領セオドア・ルーズベルトの仲介を得てロシア帝国全權大使セルゲイ・ウィッテとの交渉が1905年(明治38年)8月9日最初に開始されます。

ウィッテとの交渉は難航しますが、同8月25日付け極秘電報154号が日本政府から小村侯のもとに届けられ、ロシア皇帝はアメリカ大使マイヤーの説得により、樺太の南半分を日本へ割譲する意向を示したとの内容であったことからポーツマス講和条約締結に至りました。

ポーツマス条約締結後の小村侯の言葉を御紹介します。全ての人を満足させる事は不可能である。我々は責務を果たした事に満足すべきである。

広がるベルの音はどこまで響くか届くのか

副会長 郡司 聡 視

墓前での恒例行事として確立しつつあるベル・リングング。今回は男女 14 名が青山霊園に集まりました。中でもひととき若い 30 代の参加者は金井塚 潤さん。彼はフジテレビ系列の番組制作会社に勤めておられて、数年後に小村さんに関する長編番組を企画制作のただ中の縁でご参加戴きました。皆で鳴らしたベルはハンドメイドの土鈴で、今回も日南市の障害者支援施設「つよし学園」の皆様へ製作して戴きました。前回製作のそれよりも、音色は澄んで高くなったように感じました。「日露講和条約締結 118 周年」の文字も入れて戴きました。

加えて、日南市役所の総務課と小村記念館の安楽館長にまで 2 個ずつお届け戴く大変なお手間までお掛けしてしまいました。好意に甘えてしまいましたが、重ねて「つよし学園」の皆様には感謝を申し上げます。

時刻には 21 発の祝砲が轟き、教会の鐘、汽笛まで鳴り渡ったようだ。条約締結翌日の地元紙の一面には、大きく「Peace！」の文字が踊り、署名がこの街でなされて、この街で歴史が作られた事を市民が誇りにしていたという。

日本とロシアとの戦争の終結を、これ程までに米国の市民が望んでいたとは。その後しばらくは 9 月 5 日の 3 時 47 分に、ポーツマス海軍工廠にて 1 分間、平和のベル(かなり大きい物)が兵士により鳴らされるのがセレモニーとなっていたが、時を経て、市民がベルを手に持ち、鳴らすよう発展し、その日を市の祝日に制定。現在は、同時刻に、同市内の教会 15 ヶ所に市民が集まり、宗派を超えてベルが打ち鳴らされ、街ではパレードまで行われている。

そして遂には、市の祝日だった 9 月 5 日が、同州の「ポーツマス条約の日」として祝日にする事が 2010 年に議決されるまでになった。繰り返しますが、日本とロシアとの戦争の終結を、条約によってポーツマスにて成し遂げられたからとは言え、戦争の当事国では無い。歴史や文化を継承する大切さを教えられる。日南市でも飢餓で鐘を撞いてはどうだろうか。有志で小村記念館でベルを鳴らしてはどう

定時に 1 分間ベルを鳴らした後にシャンパンを 2 本抜き、乾杯をして祝いました。

さて、日南市役所と小村記念館に届けられたベルはどうなったのだろうか？小村記念館で鳴らされたようだと聞いてはいるが、その規模で良いのだろうか？来年はポーツマス市との姉妹都市締結 40 周年になる。米国ニューハンプシャー州のポーツマス市は日本の歴史上でも、外交史上でも大変重要な場所である。どの歴史教科書にも漏れ無く、必ずと言い切れるほど、条約の「かんむり」として記述される都市名である。日露戦争を講和で終結をみた街である。戦争当事国でもない米国の一都市で、日露両国代表団は市民から大歓迎を受け、1 ヶ月を超える滞在費用と、その他諸々の費用は市長が自己負担していた。しかもその事は代表団が引き揚げる際に初めて知らされたようだ。締結した

だろうか。ふるさと納税で同市と人的交流交換ホームステイをしてはどうだろうか。

せっかくの姉妹都市、「名ばかり」では無いと思いたい。

来年はポーツマス条約締結 120 周年、小村寿太郎生誕 170 年でもある。

青山霊園の小村さんの墓地と、日南市のどこかとリモート中継で同時開催！なんて事を思い描いても良いと思う。



訃報

当会役員のエリ恵子理事が今年 3 月 1 日にご逝去されました。これまでの当会へのご協力に感謝すると共にご冥福をお祈りいたします。合掌

一般社団法人 小村寿太郎侯東京奉賛会

小村寿太郎 奉賛会

検索

〒130-0021 東京都墨田区緑3-9-3 電話 03-3846-9030 FAX 03-6659-3084

E-mail: kanemaru.hiroshi@orchid.plala.or.jp 発行：一般社団法人 小村寿太郎侯東京奉賛会 発行日：令和6年3月 発行責任者：金丸博司

振込先：ゆうちょ銀行 店番 008 普通預金口座 1191854 名義 一般社団法人 小村寿太郎侯東京奉賛会



▲当会ホームページ
ぜひご覧ください。